

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	770301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」B棟		
所在地	郡山市富久山町八山田南広谷20-4		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成21年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年にオープンし、現在6年目のグループホームである。郡山市の住宅街の中に、平屋建て二棟で開放感溢れる場である。お客様おひとり、おひとりのケアを職員みんなで話し合い、お客様の興味や希望、思いを引き出せるよう努めている。ご本人様が意欲を持って行える役割や生きがいを探り、男性の方には外回りのお掃除や熱帯魚のお世話、女性の方には家事のお手伝いや、お好きな趣味活動を行えるよう支援している。高齢のお客様に対しても、体調に合わせて日々過ごしていただけるよう離床や食事の時間は状態に合わせて対応している。  
また、非常事態に焦らず、柔軟に対応できるようあらゆる想定で月に1回防災訓練を行い全職員の非常災害時における意識を高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念についての勉強会を行い、職員が共有し、意識づけを行っている。ホーム内に掲示し、周知されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やゴミ捨ての際に近所の方と挨拶を交わし、触れ合う機会多くみられる。町内会に加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校の実習生の受け入れを行い、認知症の方への理解、支援方法を伝え、人材育成に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者に実際に日常生活やイベント、避難訓練をみていただく機会を設け、意見や要望を頂いている。また、頂いた意見、要望を職員会議等で職員に伝え、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のサービス相談員の方が来所し、お客様と過ごして下さっている。市で行う福祉フェスティバルにも毎年参加し、グループホームの紹介、意義を市民の方に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや、勉強会を実施し、身体拘束ゼロの徹底を図っている。日々の申し送りの中で、気付かない行為、言葉使いなどでお客様に不快な思いをさせていないか、振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、言葉や態度による虐待もあることを、職員皆で理解を深めている。また、指摘し合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。実際活用されている方もおり、ご家族の相談があった時には、支援している。難しい制度でもあり、今後も、勉強会等での理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に起こりうるリスクや重度化、看取りについての他、医療連携体制等について十分に説明している。また、同意頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様にアンケートをとっている。ご家族様からは面会や電話の折に意見等ないか伺っている。また、意見等あった際は記録に残し、職員に周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りや職員会議時、面接等で意見を聞き、対応している。必要時には法人の上司に報告し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期、下期に其々、自己成長できる業務目標をたて、管理者はその達成や努力についての把握を行っている。またそれに対して職員がやりがいが持てるような評価をし、職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員についてはプリセプターをつけ、技術面だけでなく、お客様の接し方についても丁寧に指導行っている。また、既存の職員に対しても法人内・外の研修に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、交流を図っている。また法人内研修を行い、他職場の職員と交流しつつ高めあえる場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、ご本人様に会い、心身の状況や思いに向き合っている。入居後も関わりを多くし、不安や思いを受け止め、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へも説明を丁寧に行い、信頼関係が早く築けるよう努めている。また要望等の聞き取りを行い、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が何を求めているかの聞き取りを行い、柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の先輩であるということ意識し、普段からお客様に教えていただくことが多い。「喜び」「苦しみ」「不安」「楽しみ」などを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はお客様の日々の様子、出来事や気付きの情報をご家族様との共有に努めている。ご家族様の面会時やはがき等でお客様の様子を伝えたり、職員の思いを知っていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とともにお墓参りに行かれたり、ご友人来所時も居室にてゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。しかし、機会は少ないため、ご家族様の協力を得ながら馴染みの関係が継続できるよう努めていく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の団欒や食事時には職員も共に多く会話を持つようにしたり、レクやお手伝いを通して、お客様同士の交流が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所・病院に移られても、なじみの職員が面会に行くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様にとって、どこで、誰と、どのように暮らす事が最良なのかをご家族様を交えてお話することがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様自身から話を聞いたり、ご家族様、知人などの来所の際少しずつ聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間において、申し送りや記録を通し、現状の把握また、職員間での共通理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを職員全員でカンファレンスし、お客様、ご家族様の要望を積極的にケアプランに取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた点、お客様の状態変化は、個別の経過記録に記載し、情報の共有を行っている。また、それをもとに日々のケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じて、受診の付き添いなど必要な支援は柔軟に対応し、ご本人やご家族の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郡山市の助成制度の情報をご家族様に伝えている。また、安心して地域での暮らしを続けられるよう、介護サービス相談員や消防と連携を図っている。地域資源の活用はまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医を変更することなく、かかりつけ医に継続して受診している。お客様、ご家族様のみの受診においても、普段の様子、変化をわかりやすくお伝えできるよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に状態確認を行い、健康管理を行っている。また、常に看護師は電話で対応できる状態になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院中の状態把握に努め、医療相談員や主治医、ご家族様と連携を密にとり、早期退院に向けてやりとりが行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とよく話し合い、医師、医療機関にご協力いただき、ご本人様、ご家族様が安心して納得いく最期を迎えられるよう、チームで支援する体制をとっている。終末期に対しての意向確認書を作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを日勤帯、夜間帯にて作成し、周知徹底を図っている。また、職員が応急手当の勉強会に参加し、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、防災訓練を行い、日頃から意識を高めている。また、災害時の協力体制は近所の方をお願いしたり、運営推進会議にて、協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の処遇についての勉強会を行い、言葉かけの仕方を注意している。また、スタッフ同士、注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お菓子やお茶など、ご本人にお伺いしおだししている。衣類もお好きなものを選んで着ていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の食べたい時間に食事ができるようにしている。起床時間も、ご本人様のペースに合わせて対応している。買い物や散歩も一人ひとりの状態や思いにそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服をこちらで決めるのではなく、選んでいただくようにしている。ご本人様の馴染みの美容室で、希望に合わせてカットやパーマをかけられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様と野菜を育て、その野菜で何を作るか、どう料理したらおいしいかなどアドバイスいただきメニューに取り入れたりしている。お客様と共に食事の下準備、盛り付け、配膳を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを毎日行っている。管理栄養士にメニューのチェックをしていただき、バランスのよい食事の提供に努めている。食事量が少ない方には好まれる補食をおだししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様の状態に合わせて行っている。お客様によってはガーゼを使用するなどし、口腔内の清潔を保つようにしている。しかし、自立されている方への働きかけは十分にできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	進んでおむつ外しに取り組み、排泄パターンを把握し、それを活かしてトイレでの排泄を促している。ミーティングを行い、個人に合ったパットやオムツなどの検討をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方へ乳製品や冷水の提供をしている。マッサージや運動、水分などを促し対応している。 便秘改善のミーティングをこまめに行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様のその日のご様子や希望を確認し、入浴していただいている。 ゆっくり入浴したい方には時間をかけてと入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠りについて頂けるようにコミュニケーションを図ったり、お客様の話を傾聴し不安を取り除き就寝していただけるようにしている。また、室温や明るさに注意している。 寝付けない時には温かい飲み物を提供するなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース毎に内服薬が確認できるように整理している。また、内服変更があった際には記録を詳細に行い、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、野菜づくりなど1人ひとりが経験や知識を生かしていただく場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩の要望があった時は一緒に散歩に行っている。また、コンビニに行ったりしている。 普段行けない所も「希望の月」という行事にて計画をたて行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ができる方には、ご本人・家族様の希望で自己管理でお金を所持いただき、一緒にお金を数えるなどしてお金を支払う機会を設けている。また、自己管理が難しい方にも、立て替え払いの体制を整え、なるべく自分で支払う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はお客様が自由に使えるようになっており、また届きもののお礼などは職員と一緒にお礼の電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付け、居室内の家具の配置は、お客様と一緒に決めることにより、自分の居場所であるという意識を持っていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにベンチを置き、一人で過ごしたり、仲の良いお客様同士、過ごせる場所がある。また、テラス前にテーブルを置き、おひとりでレクを行える場所がある。テレビ前のソファではお客様同士楽しく談話されていることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	私物の写真や仏壇をおき、居心地のよい部屋づくりに努めている。また、ご家族様の写真を飾り、家族との繋がりを感ぜられる空間となるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「できること」「わかること」は何か職員間で意識の統一を図っている。それをもとにどのようにすればご本人様にやっていただけるか話し合い、環境整備を行っている。		